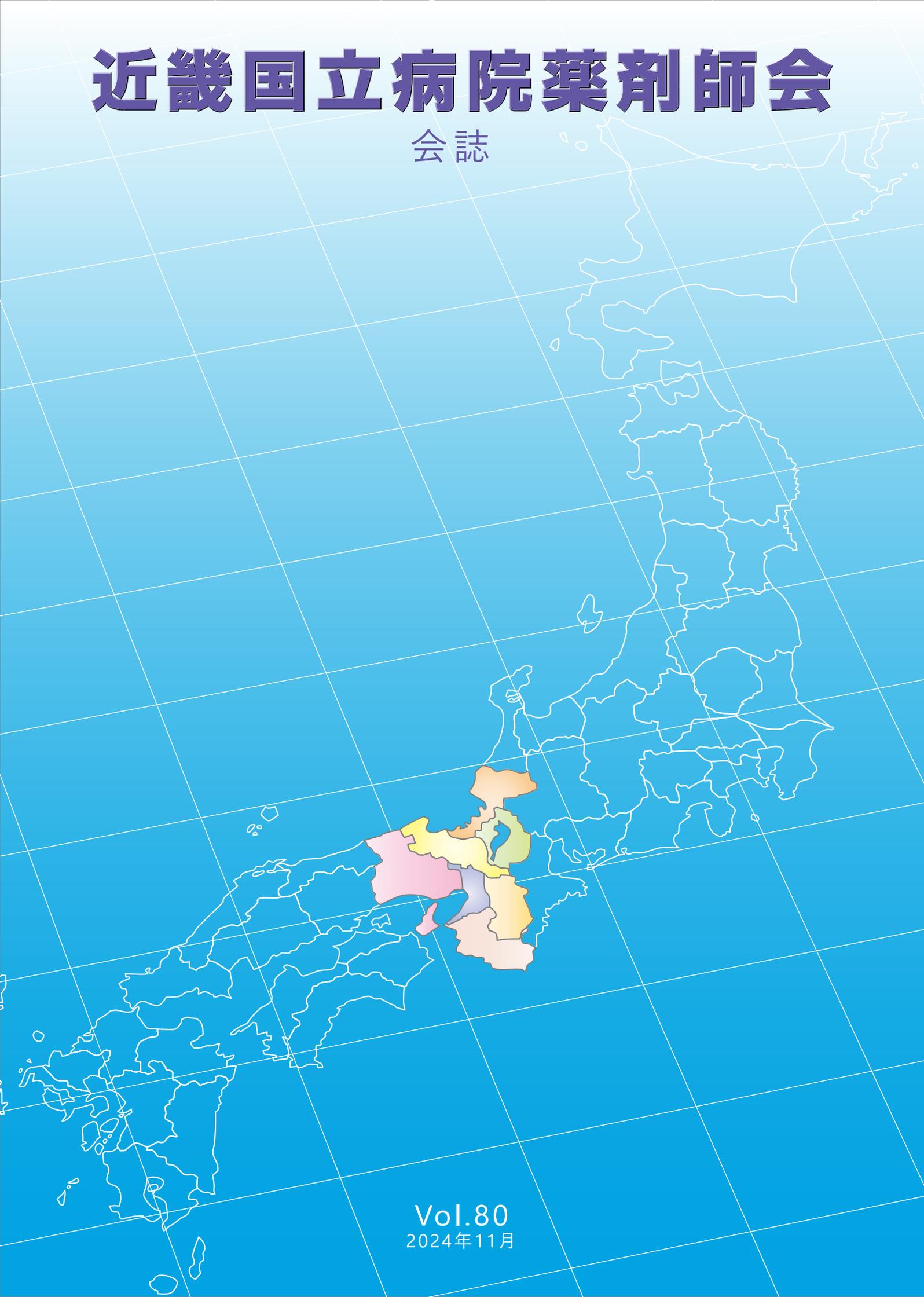


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.80
2024年11月

目 次

提言.....	2
	あわら病院 南山 啓吾
薬剤部紹介.....	3
	大阪医療センター 村津 圭治
スキルアップ研修会に参加して.....	5
	和歌山病院 廣瀬 沙紀
第 27 回日本臨床救急医学会総会・学術集会 参加報告.....	6
	南和歌山医療センター 高島 実希
第 78 回国立病院総合医学会 参加報告.....	7
	姫路医療センター 長門石 光司
第 78 回国立病院総合医学会に参加して.....	8
	神戸医療センター 清 純一
日本リウマチ財団リウマチ登録薬剤師の資格取得の経緯について.....	9
	神戸医療センター 塚本 名奈子
趣味のページ.....	11
	大阪南医療センター 鈴川 未沙希
編集後記.....	12

提言

患者ファースト～より安心安全な医療の提供を目指して～

あわら病院 南山 啓吾

2024年3月 北陸新幹線が金沢から12年の歳月を経て、敦賀まで延伸されました。あわら病院の最寄り駅である JR 芦原温泉駅(あわら病院までは約 8kmです)も新幹線の停車駅です。芦原温泉界隈の旅館やホテルは北陸新幹線延伸後、宿泊者数は 1.5 倍以上になり、観光客で賑わいを見せているところですが、あわら病院はその恩恵を受けることはほとんどなく地道に頑張っています。(私は、北陸新幹線の延伸開業と同時期にあわら病院に着任いたしました。)京都、大阪へは小浜、京都ルートでほぼ決定しているようですが、詳細な計画はこれからであり、完成まで約 20～28 年程度かかるとされています。北陸新幹線全線開通となれば京阪神から、あわらへも通勤可能となる時代がやってくるかもしれません。

鉄道と言えば、よく目にするのが運転士や車掌さんが行う指差し確認です。鉄道業界も利用客の安全を預かる大事な仕事です。事故があってははいけません。ひとたび事故が起きれば大惨事となることが予想され、多くの命が危ぶまれることとなります。

もちろん、我々が携わっている医療も決して事故があってはならず、安心安全が求められます。薬剤に関するインシデントは転倒転落に次いで発生件数が多いことが知られており、看護師がよく行っている6R や指差し呼称は医療安全に貢献している手法です。しかしながら、薬剤師はどうでしょうか。通常の調剤において指差し呼称をしている薬剤師はほとんど見かけません。私自身振り返ってみると、散薬やバラ錠の充填時、抗がん剤調製の鑑査時などは指差し呼称をしています。通常の調剤や鑑査時の時は行っていません。しかしながら、指差し呼称は行わずとも処方箋へのチェックの付け方、錠剤の数え方など、それぞれの薬剤師が自分自身に適した方法で間違いがないよう工夫することで、調剤ミスを防いでいると思います。

調剤、製剤、抗がん剤無菌調製等どれ一つ間違えて良いというものはありません。そのため、ヒヤリハットで情報収集を行い、そこから対策を立て、インシデントが起らないよう各施設で未然防止に注力いただいていると思います。

特に、抗がん剤をはじめとしたハイリスク薬の調剤・調製・鑑査においてはより一層の安心安全が求められるところであり、インシデントが発生すれば、薬剤部(科)と薬剤師の信頼低下に繋がることとなります。そうならないためにも、日頃からの安全対策をより一層確実なものとしていただきたいところです。

我々薬剤師は、患者様のことを第一に思い、患者様に安心安全な医療を届ける使命があります。これからも皆様と一緒に安心安全を追求し続けていきましょう。

【病院紹介】

大阪医療センターは、大阪城を間近に見ることができ、市の中心部を南北に走る上町台地の北端、難波宮跡に隣接する地に位置しています。この地は明治初期に緒方洪庵の次男緒方彗順惟準が活躍した大坂病院があり、適塾の教えである「扶氏医戒之略」を要約した“正しく、品よく、心をこめて”の3つの言葉が職員に向けたモットーとなっています。

標榜診療科は40科で高度総合医療施設として国が提供する「政策医療」を行うべく、努めています。また、三大疾患であるがん・心臓病・脳卒中をはじめ、HIV や肝炎などの感染症、高度救命救急医療・災害医療等に幅広く取り組んでいます。



【薬剤部紹介】

薬剤部長、副薬剤部長2名、主任10名(調剤主任、薬務主任、製剤主任2名、医薬品情報管理主任、病棟業務管理主任、研究教育主任、HIV 医薬安全係主任および治験主任2名)、薬剤師27名、薬剤助手5名で構成されています。

当院では、近年問題となっている薬剤師不足に直面、奮闘しながらも、医師の働き方改革に伴うタスクシフト・シェアに積極的に取り組んでいます。

調剤室では、係数調剤管理システム、全自動秤量散薬分包機、錠剤自動仕分返納装置等の機械化を進めるとともに、薬剤助手に取り揃えを行っていただくことで、安全で効率の良い調剤業務を行っています。

タスクシフト・シェアを推進するために、医師と合意したプロトコールに基づいて薬剤師が主体的に薬剤業務を行うPBPMの作成を積極的に行っています。入院センター業務においては、持参薬やアレルギー、副作用の有無、周術期における術前中止薬の確認を行う中で、非抗血栓薬・糖尿病薬(ビグアナイド系、SGLT-2阻害薬)については医師から中止指示がない場合、PBPMに基づき薬剤師主導で内服中止の患者指導を行っています。がん薬物療法において



は、がん化学療法を施行する患者への HBV スクリーニング等の血液検査オーダーを薬剤師が行っています。また、2024年7月より医師が診察する前に薬剤師が患者さんと面談し薬学的管理を行うがん薬物療法体制充実加算を算定しています。

病棟業務では、処方提案システムを構築、実施することで、持参薬の院内採用品への切り替えに

ついて、薬剤師が事前に処方オーダーの下書きをし、医師の負担軽減を図っています。

処方提案する際は、院内フォーミュラリーに基づき、薬剤を選択することでフォーミュラリーを推進しています。また、患者への服薬指導にも力を注いでおり、2024年7月の算定件数が2214件と過去最高(全国1位)の薬剤管理指導件数となりました。地域の保険薬局に対しては、退院時に薬剤サマリーを交付することで、退院後の患者さんのシームレスな薬学的管理を実施しています。また、2024年度中の電子処方箋導入にむけて現在準備を行っています。

大阪医療センター薬剤部は医薬品の適正使用や安全管理の向上のため、責任のある行動を遂行することによって、安全で良質かつ適正な医療の提供に貢献することを基本方針とし、病棟業務やチーム医療、地域保険薬局との連携の強化に努めています。この基本方針をもとに、経営状況もふまえ、積極的な患者サービスに取り組んでいきます。(文責:村津 圭治)



スキルアップ研修会に参加して

和歌山病院 廣瀬 沙紀

2024年9月7日に滋賀県草津市にある医療研修施設ニプロ iMEP で開催のスキルアップ研修会に参加させて頂きましたので報告します。

まず、35分程度のフィジカルアセスメントについてのDVDを視聴しました。DVDではバイタルサインの種類や測定法についてと、視診や聴診等のフィジカルイグザミネーション(身体診察)について学びました。特に「視診では収集すべき情報を明確にするため、意図的に観察すること」を学び、今後の業務に生かしていきたいと感じました。

次に、それぞれのグループに分かれてカリキュラムが進められ、私は「中心静脈栄養」と「聴診と血圧」について体験しました。

中心静脈栄養では、ロックとフラッシュの違いや CV カテーテルの種類を学びました。また CVカテーテルの穿刺体験や、2種の色水を使用しダブルルーメンは混合するか否かの実験、脂肪乳剤をフィルターに通す試みなど、普段の業務ではできない体験や実験を行いました。

聴診と血圧では、人形を用いた呼吸音の聴診体験、アネロイド血圧計を使用した血圧測定を行いました。どちらも音の聞き分けが難しかったです。これらのカリキュラムでは、グループが就業年数ごとに分かれていたため、同期との交流が図りやすかったと感じました。同期と交流し、意見交換を行うことでモチベーションアップになりました。

今回のスキルアップ研修を受けるまで私は、薬剤師にはフィジカルアセスメントは馴染みが薄いと感じていました。この研修で、フィジカルアセスメントは患者さんの状態を客観的に評価するための手段だということを知りました。薬剤師が患者さんの身体状態を把握し正しく評価することで、薬物治療や薬の適正使用に関する判断をより正確に行えます。さらに、薬剤師が客観的に評価をおこなうことで、他職種との連携や情報共有をスムーズに行うことができ、患者さんにより効果的な薬物治療を提供できると感じました。

今回の研修で、薬剤師がフィジカルアセスメントを行うことの大切さを学ぶことができ、有意義な時間となりました。最後になりますが、ご多忙の中、本企画をご準備いただいた先生方、ニプロ iMEP の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



第 27 回日本臨床救急医学会総会・学術集会 参加報告

南和歌山医療センター 高島 実希

2024年7月18日(木)から7月20日(土)の日程で開催された臨床救急医学会・学術集会に参加したため、報告いたします。場所は鹿児島市で開催され、カクイックス交流センターを中心とし宝山ホール、鹿児島県歴史・美術センター黎明館、鹿児島県立図書館、鹿児島市中央公民館などさまざまな場所で口演を拝聴し知識を深めることができました。また、合間の移動では鹿児島の街並みや桜島を見ることができて、とても癒されました。写真は鹿児島県歴史・美術センター黎明館を出たときの景色で、天気も晴れており空が青々としていたのが印象的でした。この学会開催期間の3日間は鹿児島の暑さを通して今年の夏をいち早く感じることができました。



さて私は「南和歌山医療センター薬剤部におけるDMAT 出動時におけるマニュアル整備及びアクションカード作成」の演題でポスター発表をしました。当院ではDMAT 出動時の携行薬品の準備を薬剤部で行っています。発災時にスムーズに対応できるようアクションカードを作成し、携行医薬品リストとマニュアルの整備を行いました。また薬剤部内で模擬訓練を実施し、災害時のDMAT 隊員の初動体制を整えることが出来ました。これらの準備や訓練が石川県能登半島地震の際に活かされたことを報告し、情報共有をしました。

本学会で一番関心を持ったセッションは「救急医療における薬剤師の薬学的介入のポイント～一歩踏み込んだ提案の実践～」のパネルディスカッションでした。当院では救命センター病棟があり、常駐で薬剤師を配属し病棟業務を実施しています。



このパネルディスカッションを通して体液管理や循環管理などの薬学的介入のポイントを全国から集まったプロフェッショナルな薬剤師のディスカッションを聴講することができて、とても有意義な時間だったため、日々の病棟業務に活かしたいと感じました。

来年度はパシフィコ横浜で開催決定している臨床救急医学会ですが、今年よりも少し早い時期を予定しているみたいなので新しい知見を取り込むべく参加できればと思います。興味のある先生方はぜひ参加してみたいと思います。

第 78 回国立病院総合医学会 参加報告

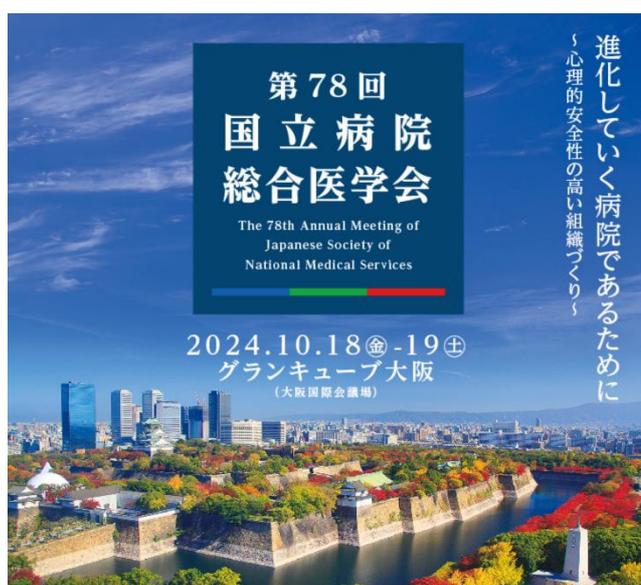
姫路医療センター 長門石 光司

第 78 回国立病院総合医学会が令和 6 年 10 月 18 日、19 日の 2 日間にわたりグランキューブ大阪にて開催されました。今回は近畿グループが担当であったこともあり身近であると同時に、良い学会とするという熱気を会場で強く感じました。

本学会は「進化していく病院であるために～心理的安全性の高い組織づくり～」をテーマに掲げ、厳しい医療業界の中でいかに生き残れるか、患者に寄り添う医療を行うにはどうすればいいのか等の心惹かれる興味深い演題が数多くありました。今回私は、「オピオイド説明用紙作成による患者指導の質の向上と統一化の取り組み」の演題で、一般演題のポスター発表を行いました。

発表の内容は、姫路医療センター緩和ケアチームの、患者とのかかわりの中で、麻薬の導入を行う際に、患者が主治医の説明を十分に理解できていないケースや、説明者によって内容が異なることによる不信感などが課題となっていました。そこで、チームで検討を行い統一された指導書を作成し、患者への説明の質の向上を目指した取り組みを行いました。今後は、病院全体だけでなく地域にもこの指導書を公開し、院内外で切れ目のない支援体制を構築し、質の高い患者指導に繋げていきたいと考えています。

学会では、二日目の発表であったため、一日目は他の演題も聴講することができました。特に、電子処方箋導入に向けた薬剤部の取り組みは、当院でも今後の導入が必須であることから、非常に参考になりました。現地開催ということもあり、多職種の方々と直接意見交換を行うことができ、貴重な経験となりました。初めての学会発表でしたが、多くの学びを得ることができ、今後の業務に活かしていきたいと考えています。



第 78 回国立病院総合医学会に参加して

神戸医療センター 清 純一

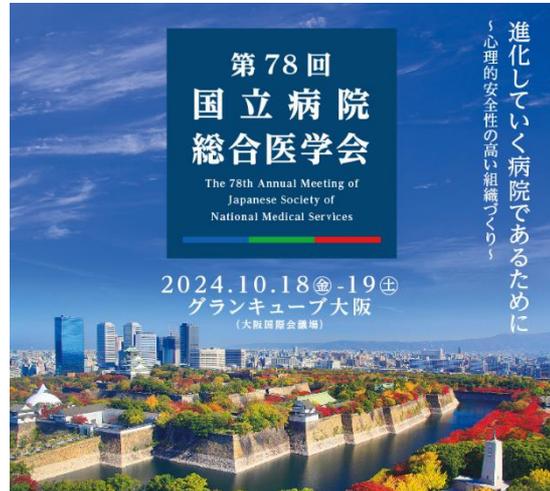
令和 6 年 10 月 18 日(金)から 10 月 19 日(土)に大阪府のグランキューブ大阪にて第 78 回国立病院総合医学会が開催されました。今回、私はポスター発表で参加しましたのでご報告させていただきます。

私は「当院における周術期医療への薬剤師の取り組み」について発表させていただきました。令和 4 年度診療報酬改定において周術期薬剤管理加算が新設されました。当院では

以前より薬剤師が手術室の医薬品管理を行っており、今回新たに術前から術後まで各担当薬剤師が情報共有できる運用の構築および結果・今後の課題について発表しました。今回抄録やポスターの作成をすることで当院の課題について見直すきっかけになりました。

私は学生時代以来の学会発表であり、とても緊張しましたが貴重な経験ができました。今回の国立病院総合医学会は大阪が開催地でもあり、発表させていただきました。今後は関西から離れた地でも学会に参加・発表を行い、他施設の発表内容を参考にして日常の業務に活かせるよう経験を積みたいと思います。その際は、その土地の名物を食べたり観光したりとプライベートでも充実した学会発表にしたいです。

最後になりましたが、このような発表の機会をいただいたこと、抄録からポスター作成に至るまでご指導いただいた先生方に深く御礼申し上げます。



日本リウマチ財団リウマチ登録薬剤師の資格取得の経緯について

神戸医療センター 塚本 名奈子

私が日本リウマチ財団リウマチ登録薬剤師の資格を取得したのは、薬剤師 4 年目の時でした。リウマチセンターを有する施設で、1 年目の春から丸 3 年間、関節リウマチやその他膠原病の治療を受けている患者さんと日々向き合ってきた結果を残したいと思い、受験しました。またこの制度はその 1 年前に発足したところでしたので、職場では一斉に受験しており、私はその後を追う形で丁寧に教えてもらいながら各種手続きを行ったことを懐かしく思い出します。

日本リウマチ財団リウマチ登録薬剤師制度は、リウマチ性疾患の薬物療法に精通した薬剤師を育成し、日本リウマチ財団登録医及び日本リウマチ財団登録リウマチケア看護師、並びに日本リウマチ財団登録理学・作業療法士等と連携・協働して医療技術の進歩と医療水準の向上を図り、系統的治療・ケアにより、国民の健康と福祉に貢献することを目的として作られています。

資格取得のための条件は以下の 6 つです。①申請時に 3 年以上の薬剤師実務経験がある。②直近 5 年間において通算 1 年以上リウマチ性疾患の薬学的管理指導に従事している。③リウマチ財団登録医、日本リウマチ学会リウマチ専門医、日本整形外科学会認定リウマチ医の推薦を有する。④直近 5 年間において、リウマチ性疾患服薬指導等の薬剤師業務を担当した 10 例の名簿を提出できる。⑤リウマチ性疾患薬学的管理指導 5 例の指導記録を提出できる。⑥直近 5 年において、財団主催・認定の教育研修会に出席し 20 単位以上を取得している。

財団主催の教育研修会は、頻回に開催され内容も充実しており、単位取得に困ることはありませんでした。一日で、手術、薬物治療、看護、リハビリ…とリウマチ性疾患治療について一通り学べる研修会も多く、おすすめです。なお、資格取得後は、定期的な案内を受け取ることができ、勉強の機会に困ることもありません。

また、資格更新においても疾患の特殊性が配慮されています。リウマチ性疾患治療に携わることのできない施設に勤務している者に対し、理由書と十分な単位取得があれば、将来にリウマチ性疾患の薬剤業務に従事しようとする熱意を評価して更新を受け付けてくれます。

最後に、リウマチ治療はこの 20 年で最も進歩した医学領域の一つとされています。今や、痛みを抑えるだけでなく骨破壊の進行を抑えることも期待できるようになり、場合によっては薬剤を減らすことも可能となってきました。その一方で、強力な免疫抑制による、感染症をはじめとした有害事象の管理も重要であり、多剤併用となりやすいのも特徴です。

薬剤師としては、各薬剤の意義と副作用の説明、服薬状況の確認や感染症のフォロー、疼痛改善後は対処療法薬の減量提案の検討など、治療支援できるところが多くあります。服薬手技に関して作業療法士との連携もありますし、そして患者さんは薬物療法に熱心な方が多いです。

また、日本リウマチ財団の他に、日本リウマチ学会もあり、その学術集会は全国でリウマチ・膠原病領域に携わっている薬剤師が多く交流する機会となっています。こうした交流がきっかけとなり、近年では薬剤師の研究会やネットワークも存在し、薬剤師向けの研修会の開催や情報共有などが行われています。リウマチ・膠原病領域にご興味のある先生は、ぜひお声がけ下さったら嬉しいです。

趣味のページ

大阪南医療センター 鈴川 未沙希

大阪医療センターの檜本先生から引き継ぎました、大阪南医療センターの鈴川です。檜本先生は、私が学生実習時代にお世話になった先生です。こうして国立病院機構でこのような繋がりが出来るのも縁かと思えます。いつか同じ施設で一緒に働ける事楽しみにしています。

私の趣味は、旅先の楽しみの一つに水族館や動物園巡りをする事です。ここ数年では、海遊館や天王寺動物園、名古屋港水族館、すみだ水族館、横浜シーパラダイス、うみたまご等を訪れました。特に鳥が好きで、中でもペンギンにとっても心惹かれました。ペンギンは、白と黒のシンプルなツートンカラーにふっくらとした体形、陸上ではよちよちとした歩き方ですが、空を飛ぶように大海を羽ばたく姿がとても魅力的です。動物園、水族館でも見ることができるので身近な生き物かと思えます。ペンギンの種類は全 18 種、日本では約 11 種が飼育されており、世界の飼育数の 1/4 が日本にいます。そんな身近なペンギンですが、一番大きなサイズのコウテイペンギンは日本でも和歌山県の『アドベンチャーワールド』と愛知県の『名古屋港水族館』のみでしか出会えません。写真は名古屋港のコウテイペンギンで、ふかふか浮いている姿ですが、大きな体格で迫力がありました。また、ジェンツーペンギンもおすすめです。左の写真は、海遊館で撮った写真です。白のカチューシャのような模様とアクセントカラーの黄色の嘴と足があるオシャレさんです。ジェンツーペンギンのコミュニケーションはぺこりぺこりと頭を下げるお辞儀なのも可愛らしいです。ですが、ペンギン界では陸を一番速く走り、海を一番速く泳ぐ、その格好良いギャップが魅力的です。写真左後ろにいるのが関東の交通系 IC『Suica』の mascot キャラクターで有名なアデリーペンギンです。目の模様が特徴的で、少し荒っぽい性格をしていてケンカをしたり走り回ったりする姿が面白いです。まだまだ語り切れませんが、今回このような機会を与えていただき、ありがとうございました。ペンギンに出会ったら生態やその可愛らしさにぜひ触れてみてください。



写真左後ろにいるのが関東の交通系 IC『Suica』の mascot キャラクターで有名なアデリーペンギンです。目の模様が特徴的で、少し荒っぽい性格をしていてケンカをしたり走り回ったりする姿が面白いです。まだまだ語り切れませんが、今回このような機会を与えていただき、ありがとうございました。ペンギンに出会ったら生態やその可愛らしさにぜひ触れてみてください。

次は、前年度お世話になり、動物のお話と一緒に盛り上がった近畿中央呼吸器センターの川上先生に引き継ぎたいと思います。よろしくお願ひします。

